



“〇〇の秋”に思う

校長 永井 有司

残夏の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

2学期がスタートしました。「長い」と思っていた夏休みも終わってみるとあっという間という気がいたします。夏休み中、子どもたちは普段できない貴重な体験をすることができたことと思います。その体験が、ぜひ2学期の学校生活に、また学習に生かされることを願っています。わたしも、この夏休みは何と30年ぶりに「青春18きっぷ」を使って旅行をしました。新たな発見をすることができ、思い出に残る貴重な体験となりました。

さて、四季の移り変わりを楽しむ習慣のある日本人ではありますが、不思議と「〇〇の春」「〇〇の夏」「〇〇の冬」という表現は使わず、「〇〇の秋」という表現のみが使われているのはなぜなのでしょう。不思議に思い、少し調べてみました。すると、農耕民族の習慣が関係していたという記述に出会いました。春から初秋にかけては、作物を育てる忙しい農耕期になります。秋の収穫の時期を迎えると、やっと時間に余裕が生まれ、様々なことに取り組むことができるようになります。それに加えて、秋は過ごしやすく、食べ物もおいしいことから、「〇〇の秋」と表現されるようになったとのことだそうです。

それでは、どんな秋があるのでしょうか。

「読書の秋」・・・学校では、読書月間があり、読書に親しむことができるように取組を実施します。読書好きの児童生徒ほど教科の学力が高いという傾向が、非常に強固であることが全国学力調査の分析からも明らかになっていますので、読書好きな子を育てるために、今後も取組を行っていく予定です。

「スポーツの秋」・・・由来は1964年に実施された東京オリンピックにあるようですが、気候や天気がよく、運動に適している季節と言えましょう。学校では、大宮地区の駅伝競走大会、校内持久走会等の取組があります。天気の良い日には、校庭に出て思い切り体を動かしてもらいたいものです。

「芸術の秋」・・・心を豊かにする情操教育はとても大切であると言われて久しいですが、残念ながら、小学校では図画工作や音楽の授業時数は少なく、十分とは言えません。芸術分野では、音楽朝会、小・中合同音楽会、吹奏楽部演奏等、音楽に触れる機会はたくさんあります。また、図工については様々な展覧会が予定されています。創作するにも鑑賞するにもよい季節ですので、心を育てる活動を大切にしながら教育活動を実践していきます。

他に、「食欲の秋」「行楽の秋」などもありますが、子どもたちにとって、いろいろなことに挑戦する秋になってほしいと願いたいものです。

* * * * *

昨年度は、「食育」の研究を進めてまいりました。今年度は、小・中一貫教育の研究を宮原中学校区の小・中学校で進めるとともに、「算数」の研究を始めております。さいたま市全体でも基礎学力の定着が喫緊の課題となっております。特に、内容の積み上げが欠かせない教科である算数は、どこかでつまずくと、そのまま苦手教科になってしまう危険性があります。そこで、学校全体で、指導に統一感をもたせたり、共通の取組を継続的に実施したりして、学力向上への取組を進めていきます。2学期より、朝学習の時間(木曜日)に「算数タイム」を導入いたします。昨年度同様、ご家庭にもご協力いただくこともあるかと思いますが、よろしく願いいたします。

